京都帝國大學新聞

月二回 五日・二十一日發行

講讀料 一部五錢（郵税五厘） 一年一圓（郵税とも）
廣告料 一行につき金五十錢（記事中は十二倍） 掲載ページを指定するときは二割増とす

發行編輯兼印刷人 入山雄一
發行所 京都帝國大學學友會新聞部 電話上九八〇番 振替大阪七三二八九

號外
昭和八年五月二十四日

全學を擧げて總長を支持す！

決意愈よかたく
總長昨夜東上す
けふ文相と會見して
不當要求を一蹴せん

四月二十二日初めて鳩山文相より正式に意を受けた時より「**當局の見解には同意し難し**」と固い決意を示してゐた小西總長は、その後度度文部省より再考を促がされたが、全學教授及び學生の壓倒的支持の下に斷乎たる決意を固め

自分は今夜上京するが、自分の見解は熟慮の結果何等變化はない、依然として文部省のとらんとする處置に反對し、其の要求を拒絶する

旨を公式に宮本法學部長につたへ、悲壯の決心を秘め昨夜九時三十七分米原發十六號列車一等寢臺に乘車一路東上した、けふ午前中には文部省に於て直接文部大臣に面會、當局の要求を斷乎として拒絶するであらう、文部省に於て反省する處なければ、本學と文部省とは正面衝突は不可避で、全學教授學生はます〲意を固めて壓倒的に總長を支持し、大學の自治、研究の自由のため敢然としてふるひ立たねばならぬ時が來た

米原から秘かに乘車
學生代表は深夜まで 京都驛で待ちぼけ

吾ら總長は別項の如き固き決心を持つて、九時三十七分、米原驛發第十六號急行列車で東上した、同法學部學生大會代表、有志は京都驛で總長に面會して、學生の悲壯なる決心を總長に披瀝し、その決議文を手交、大いに激勵する意向で七時から深夜まで待つたが冷水の如き吾等の小西總長は、出發間際まで悠々せまらず愛讀の書を繙き出發に際し若い學生をさらに興奮させることを慮る心づかひから靜かに米原から乘車したものと見られてゐる

教授へ嘆願？
經濟學部學生が

法學部學生の奮つたる活躍に對して既に聲明書を發表して本問題に關する態度を明かにした經濟學部學生は、今日午後一時から高校別委員前にその實行委員三名からなる緊急會議を本部地下委員室で開催し組織を決定するとともに危機に瀕せる本學に對する學生大衆の意向をはかつて經濟學部教授會へ嘆願書を提出する筈で今後經濟學部學生の積極的な擧の擁護運動が豫想される

既に辭表を取りまとめ
法學部結束固し

きのふ東上を前にしてます〲固い總長の決意を聽いた法學部教授會では、更に結束と戰備を固め、完全なる統制と敏速なる行動を圖ることを協議し、法學部教授全員十六氏悉ち辭表を取り纒め、宮本部長に委託した

なほこれに先立つて助教授團も又法學部全體としての立場から教授と共に敏速なる行動をなすため、七氏も辭表を首席助教授黑田覺氏の手許まで出してをり、同氏のもとに保管中であり、專任講師、助手、副手も既に辭表を一括してゐる、かくて法學部全員の結束固く、たゞ一路當局の彈壓と戰ふべく、戰備は全くとゝのへられたわけである

果然、母校擁護を叫び
京都の先輩團立つ
大森市長ら積極的に活動

大阪有信會支部は別掲の通りまづ一大烽火を擧げたに對し、一方、地元京都の法學部先輩である大森市長、川勝住友銀行京都支店長、淺田京都元辯護士會長らは昨廿三日母校の危機にあたつて總長並に教授會とともに母校擁護のために蹶起する事となり、昨廿三日淺田氏は本學を訪問、宮本部長をはじめその他の諸教授から眞相を聽取したが愈々今明日の中には京都先輩團を糾合して母校擁護の積極的態度を明かにするはずである

左右に偏せず
あく迄純眞の態度で
目的の貫徹に邁進する

東上する總長に會見す[illegible]を驛に派する傍ら、法學部學生の高校代表者會議は、廿三日夕六時半から學内某所に開かれ、約四時間の後大會を終つたが、中央部と協議の後昨夜深更情報部委員から談話の形式で次の如く會議内容を發表した

吾々は眞に左右に偏せざる態度で飽くまでも目的を貫徹するための立場にある、從つて昨日のビラ撒き事件に關する某紙の記事の如きに對しては、吾らを死地に陷れるものと激昂して居り吾々の決心はこの事件に依り愈々確固となる許りで、目的貫徹のため左右兩翼の運動は斷乎として排撃し、このため何らかの自衛的具體方法を講ずることになつた、又高校同窓會意見もあり、この運動を常に各同窓會と連絡を取り、飽くまでも下からの運動とすることにした、吾々の手許には各學部より積極的支持のメッセージも來て居るし、又同志社大學部有志の名であくまでも初志を貫徹せられよとの別掲の如き聲援のメッセージも受けた、それに對しては感謝状を手交することに滿場一致で決定した

總長東上に際して

迷妄なる判斷の下に、文政當局が猶自己の非を悟らず、敢へて暴惡不當の處斷を遂行せんとするに抗し、我等が學園總長は確固不拔の決意を呑みて、昨夜、遂に東上せり。

學園の神聖、講學の自由、そは我等が全生命にして、いやしくも、そを剝奪せんと企つるものに對し我等は斷乎自己の生命を死守せざるべからず。

今や、事はたゞに法學部一個の死活如何にとゞまらず、實に我等全學園の死活にあらずして何ぞ。

既に我等が總長は東上せり。我等は、此處に、我等滿腔の熱意を以て、京都帝國大學總長の決意を支持せんとするものなり

新聞部 堀川直義
同 宗川礫雄
同 木村貞藏
同 友野代三
同 山本明
同 森下巖

けふ午後四時半
有信會大阪支部大會
電氣クラブで開催

本問題に關し在阪本學出身者より成る有信會大阪支部では二十二日幹事會を開き、瀧川教授に辭職を強要する文部省に對し猛省を促すこととなつたが、當日の決議に依り本日午後四時半から堂島電氣クラブに支部大會を開く筈で、招聘に應じて本學法學部學生高校別委員會より中央部委員三名も經過報告のため出席する

不屈なビラ撒き
運動の邪魔

廿二日夕、法、經學生代表が集會中、京大學生有志團の名をもつてアヂビラを撒布したものもあり、學生課、川端署では撒布者を搜査中ある者はこのビラは明かに、本學内部を混亂に導き、我等、學生の眞面目な運動を蹉跌に陷入れんとする意向で、背後に魔の手があるのではないかと見て居るが、かゝる陋劣なるやり方は、左翼の動きより更に憂ふべき事であるといはれて居る

左翼をいましむ聲高し

學生が大會を催し、一つの要求を團體の名で、發表するとき、取締りの任にあたる各當局はその背後に左翼の手が動き、指導して居ないかといふことを先づ考慮するが不幸にして、其の豫想が適中し、場合によつては其の爲め輿論の同情を失ひ、目的の蹉跌をみた例が多々あるので、教授も學生もその點を非常に憂慮して居る、恐らく左翼の人々も、一般學生と同樣に大學の自治、研究の自由に對しては立脚點こそ違へ、意見を等しくする事は當然の事である、併し、前例をよく考慮のうちに入れて、自治と自由の確守に邁進する爲め不利となる行動は謹むべきであるといふ聲が高い

裏面にもニュースあり

聲明書

今ヤ法學部ノ危機ハ轉ジテ大學全體ノ浮沈ニマデ到達シタリ。我等ノ總長ハ法學部ノ悲壯ナル決意ヲ支持シテ斷乎上京セリ。事態コヽニ至レバ全學ハ起ツテ總長ヲ支持シ大學ノ存立ヲ擁護セザルベカラズ。我等新聞部先輩團ハ、母校未曾有ノ危機ニ直面シテ最早ヤ座視スルニ忍ビズ、決然トシテ大學ノ存立ト自治トヲ守ラントス

事態ヲ冷靜ニ觀ルニ、文部當局ハ妄語ヲ以テ教授ヲ陷レ、讒言ヲ弄シテ一世ヲ惑ハシ恫喝シテ職權ヲ濫用セントス。眞摯ナル學究ニ從ヒ、熱誠ヲ以テ講筵ニ列スルモノ、豈盲從シ得ベケンヤ。學問ノ内容ヲ俗吏ノ徒ノ批判ニ任セ、學者ノ進退ヲ強權ニ委ネ、尚之ヲモ甘受スベシトセバ、吾人寧ロ大學ノ倒壞ヲ喜ブ。法學部全教授連袂職ヲ賭シ一身ヲ犧牲ニシテ、學問ノ公道ヲ擁護セントシ、總長亦悲壯ナル決心ヲ固メ、風雲正ニ急ナラントス。大學ノ轉落實ニ此ノ一戰ニカヽル

敢テ言フ。曲學阿世、國家ヲ累卵ノ危ニ陷レ、一國ノ文化ヲ逆轉セントスルハ文政當局ニ非ズシテ誰ゾ。大學自治、學問ノ自由ノ逆轉沒落ノ危期ニ際シ、堂々ト抗爭スルハ吾等卒業生ノ至上ノ使命ト確信スル所ナリ。吾等條理ニ立脚シ一歩モ退カサルモノナルコトヲ此處ニ誓フ

昭和八年五月二十四日

京都帝國大學新聞先輩團

同大からもメッセージ

法學部學生の奮起に對して同志社法學部もこの問題に多大の關心を持ち學園の壓迫は只本學のみの問題に非ずとなし、左の如きメッセージを同志社大學學生有志の名で本學法學部學生宛にもたらした

メッセージ

京都帝國大學法學部瀧川教授ノ問題ハ既ニ周知ノ事實デアル問題ハ學問ノ自由ヲ冒ス文部省ノ不當ナル干渉ニ對シテ全教授團及全學生團ノ敢然タル自由擁護ノ抗爭ニアル京大教授及學生團ノ主張ハ批判ノ餘地ナキマデニ正當デアル而シテ此ハ單ナル一大學ノ一事件デハナイ學問ノ自由ハ學徒タルモノヽ何人モ守ラネバナラヌモノデアルココニ吾々ハ瀧川教授擁護ノタメニ吾々ノ固キ意志ヲ表示スル

昭和八年五月廿三日

同志社大學學生有志一同

交渉決裂！
昨夜東上した吾等の小西總長はけふ正午鳩山文相と會見したが交渉遂に決裂す

各學部學生 高等學校會

各學校を綜合した各出身高等學校會も、問題は單に法學部にとゞまらないものとして、學各部生を含めて奮起し、それ〲會合を開き、第一高等學校を皮切りとし、臺北高等學校、成城高等學校等出身各學部學生の名にかて、聲明書ないし決議書を發表、問題はいよ〲全國的高校別にも擴がりつゝある